

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 能美市立粟生小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒923-1101
石川県能美市粟生町口45番地

E-mail ao-els@school.city.nomi.ishikawa.jp
Website http://www.school.city.nomi.ishikawa.jp/~aoewww/

児童数 男子 139名 女子 135名 合計 274名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校では、地域と連携し、自然環境や地域の人材・施設を生かし、地域の歴史や伝統を感じ、地域の人々とかかわり合うことの喜びが実感でき、地域のよさを大切にする心と礼儀を重んじる態度を育成する。

具体的には、①交際理解に係わる学習、②食育に係わる学習、③伝統文化に係わる活動、④人権に係わる活動、⑤生物多様性・環境に係わる活動、⑥防災教育に係わる活動を行った。

① 国際理解に係わる学習

・外国語活動

担任とEAAで、音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や他国の文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成した。

・ユネスコ寺子屋運動への支援

ボランティア委員会が全校に呼びかけて、書き損じ葉書・古切手収集、1円玉募金を行った。集まった物が海外でどれくらいの価値を持つのかを紹介し、活動の意欲向上を図った。

② 食育に係わる学習

・ 5年生の稲作体験と教科横断的な学習

5年生の社会科の学習と並行して、総合的な学習の時間で田植えや稲刈りなどの体験を取り入れた学習を行い、家庭科で獲れた米を使った料理の献立作りと調理を行い、食に関する学習を進めた。

・ 食に関する指導

毎月、給食の献立をもとに、食に関する伝統文化についての理解や食を通しての国際理解などを広める指導を行っている。また、6年生の家庭科では給食の献立作りを考え、優秀作は実際の献立に採用した。

③ 伝統文化に係わる活動

・ 伝統工芸九谷焼の学習

4年生の社会科と総合的な学習の時間で、能美市の伝統工芸九谷焼の学習を進め、九谷焼資料館や陶芸館を活用し、九谷焼の絵付け体験などを行い、地域に伝わる伝統文化の理解を深めた。

・ 粟生に伝わる獅子舞や昔話の学習

3年生の総合的な学習の時間で、地域の方を招いて地域に伝わる粟生獅子舞を調べ習った。また、「粟生ふるさとカルタ」調べを行い、現地を訪れ、地域の方の説明を聞くなどして校区の歴史を学んだ。

④ 人権に係わる活動

・ こころの花運動

地域の方々と花を育て、7月に「こころの花運動」を開催し、全校児童が親子で、各地区の80歳以上の高齢者に花鉢を届ける活動を行った。高齢者との交流を通して、心を通わせ、いろいろなことを教えていただく機会となった。

また、高齢者からは、たくさんの御礼や心待ちにしていたことを伝えていただき、子どもたちの励みになった。

・ あおぞらホームとの交流

ボランティア委員会が、高齢者施設「あおぞらホーム」を訪問し、交流を深めた。運動会などの学校行事でも招待状を渡し、お招きした。



米作り体験（田植え）



こころの花運動

⑤ 生物多様性・環境に係わる活動

・熊田川清掃・トミヨ観察会

毎日、飼育栽培委員会の児童が、中庭にある池と廊下にある水槽で飼育している環境省レッドリスト・絶滅危惧類のトミヨの餌やり・観察を行っている。中庭の池については、地域のハリンコ（トミヨの別名）保存会の方も訪れ、トミヨの様子を気にかけてくれている。また、毎年、同保存会の協力を得て、夏休みの始めに校区の熊田川に出かけ、川の清掃活動やトミヨ等の生息調査を行っていたが、今年は7月の豪雨のため、残念ながら中止となった。

⑥ 防災教育に係わる活動

・防災訓練

石川県が主催する県民一斉防災訓練「シェイクアウトいしかわ」の取組に合わせ、7月に地震を想定した訓練を行った。各教室で、授業中、地震が発生したときの初動対応を体験し、「自分の身は自分で守る」という意識を高めることができた。

・手取川大洪水と地域の人々

4年生の総合的な学習の時間や3年社会科の校区の学習で昭和9年の手取川大洪水で被害を受けた後、復興に取り組んできた地域の人々の様子や願い、地域に残る洪水にまつわるいろいろなものについて学習し、自他の身を守る事の大切さや、命の大切さについて考えた。

(2) 活動の詳細

①活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 週休日・夏季休業日)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ②ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

地域にある人材・自然・文化などを最大限活用できるように、児童の発達段階や教科等の内容に沿って、ユネスコ活動の内容を振り分けている。
また、各教科等の関連を重視しながら、季節性等も考慮に入れ、年間指導計画を編成している。
各活動に対しては、事前の準備等を十分に行うことはもちろん、事後の評価を的確に行い、次年度に適切につながるよう配慮している。

- ③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学校内での各活動の取組内容や実際の指導の進め方については、各学年が前年度までの活動の様子を参考にしながら検討している。
同時に、学校外の教育資源の活用にあたっては、学年担当に負担が集中しないよう渉外担当を置くことによって、活動が無理なく継続的に取り組めるようにしている。

- ④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

年度当初に設定する学校経営基本方針にのっとり、学校評価計画を立案する。その中では、具体的方策、評価指標に沿って取組状況を整理し、学校関係者評価委員の意見を参考に、次年度に向けた改善策を設定している。
成果としては、活動が継続されるにつれて、地域とのつながりが深まってきていることが挙げられる。
また、課題としては、活動に充てる時間の確保の難しさが挙げられる。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

学校の教育活動をホームページにアップロードすることはもちろん、月に数回学校だよりを作成し、校区内の全戸に回覧してもらっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

以前の活動の中では行われていた大学との連携について、再開に向けた取組のあり方を検討していきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

市内のユネスコスクールの活動の状況を共有する機会をもつように働きかけていくことが考えられる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

能美市版コミュニティ・スクール制度の実施を受けて、学校運営協議会の機能を最大限活用して、活動の計画立案、指導者の確保、地域への周知などの充実を図り、地域とのつながりを強化し、本校の目標の実現を図っていききたい。

（3）平成30年度の活動計画

以下に挙げる内容について継続を行い、取組の充実・深化を図っていく。

- 1 国際理解…英語教育・外国語活動、ユネスコ寺子屋運動支援
- 2 生物多様性・環境…トミヨ観察・飼育、トキの保護活動理解
- 3 食育…米づくり体験、食指導
- 4 伝統文化…伝統工芸九谷焼学習、粟生獅子舞体験学習、粟生カルタ、親子ポスター「粟生校区のすてき」
- 5 防災教育…シェイクアウトいしかわ、避難訓練、防災引き渡し訓練、手取川洪水学習
- 6 人権教育…こころの花運動、あいさつ標語、高齢者施設訪問・招待